

### 3. 嘉右衛門堀 【「わたしたちの河南町」(平成11年3月31日発行)を抜粋】

鹿又地区は、今からおよそ400年ほど前までは、北上川が大雨のたびに洪水になることが多く、ほとんどが谷地になっていました。

仙台藩主伊達政宗の頃に、川村孫兵衛が北上川を改修してから、洪水も少なくなり、荒れ地は次々に開墾されて水田がつくられていました。田に使う水は、糠塚に潜穴(トンネル)を掘って広渕沼から引き入れました。

こうして田ができていったのですが、鹿又と須江の間は水はげが悪く、農家の人々は大変苦勞をしました。

そこで、寛文4年(1664年)に、小島嘉右衛門が中心になり、鹿又から石巻へ流す排水路をつくりました。これが嘉右衛門堀です。

この排水路によって鹿又の田は水はげが良くなり、田がさらに広げられていきました。



嘉衛門堀



糠塚潜穴のあと



嘉衛門堀 (改修工事前)



嘉衛門堀 (現在)